

2018年度 自己点検・評価シート(案)

内部質保証委員会

基準1 理念・目的

*各組織が認識している「2017年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2017年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2018年度期首時点)	①2018年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2018年度の取り組みとその成果 ②2018年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか ○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定 ○教育ビジョンにおけるロードマップの作成</p> <p>①</p>	<p>[現状説明] 本学の理念・目的・教育目標に基づいて、教学上の中長期計画やビジョンを明確にするため、創立120周年を迎える2020年に向けた教育ビジョン「東経大チャレンジ2020」を2016年度に策定し、本学WEB上で公表した。次いで、2017年度から2020年度にわたる年度ごとの目標を設定した「ロードマップ」で具体的な行動計画を公表した。 教育ビジョンおよびロードマップは、本学の「建学の精神」である「進一層」をベースに、「4つのクオリティ」の向上を通じて「チャレンジする学生の育成」をめざすという、本学の姿勢を示している。 2017年度に内部質保証システムを確立し、全学的な計画の下で、大学全体、学部・全学共通教育センター・研究科・委員会・事務部署等の各組織および教職員個々がPDCAサイクルを有効に機能させるための態勢を整えた。</p> <p>[長所・特色] 教育ビジョンおよびロードマップを基に年度ごとの事業計画を立案し、事業計画を基に各組織が年度ごとの目標を設定している。ロードマップに示している施策は、PDCAサイクルによって毎年度、強化・拡充等の見直しをすることを想定している。</p> <p>[問題点] ロードマップに示した施策は、基本的には目標であり、状況によっては目標の設定を緩和することもあり得る。</p>	<p>①2019年度、2020年度のロードマップを見直し、新規施策を取り込む。 ②各組織で検討している新しい取り組みや拡充できる取り組みを、教学改革推進会議でロードマップに盛り込み、本学WEB上で公表する。</p>	<p>以下のとおり、2019年度、2020年度のロードマップの見直しを行った。今後、本学WEB上で公表する予定である。 【EDUCATION】 2019年度 ■PBL授業、ワークショップ授業の充実 ■英語による専門教育の充実に向けた検討 ■ゼミ活動やゼミ論文の充実 ■図書館機能を活用した正課授業との連携強化 2020年度 ■経営学部経営学科「ファイナンスコース」開始 ■国際学生セミナー・国際ワークショップの開催[120周年記念事業] ■「環境と地域にかかわる産官学民連携による共同研究」、特別授業、シンポジウム、記念出版[120周年記念事業] 【CAREER】 2019年度 ■教職課程における学校ボランティア・学校インターンシップの推進 ■新就職支援システム導入による就職活動環境の充実 ■キャリア教育支援のためのラウンジの開設 ■資格取得講座の拡充 2020年度 ■海外インターンシップの拡充 ■公務員対策講座の強化 【SUPPORT】 2019年度 ■学生による学生のためのピアサポートの拡充 ■外国人留学生への多面的な支援強化 ■初年次生用教材の改訂 ■高等教育無償化(大学等における修学の支援に関する法律)への対応 2020年度 ■学生の成長の記録を映像化する「学生たちのはじめて物語」の制作[120周年記念事業] ■入学前教育用教材の改訂 【CAMPUS】 2019年度 ■環境・防災に配慮した第2期国分寺キャンパス整備基本計画の策定 ■学内ネットワーク環境の整備・拡充計画策定 ■「新次郎池」及び周辺の魅力化事業、設計及び工事着手 2020年度 ■新棟及び改修棟に係る基本設計[120周年記念事業] ■「新次郎池」及び周辺の魅力化事業の竣工[120周年記念事業]</p> <p>なお、現行の教育ビジョンの問題点・改善点は、新たなビジョン策定に役立てることとする。</p>	<p>S</p>	<p>2月21日教学改革推進会議議事録</p>	<p>「10年後を見据えた新構想」の策定に向けて全学的に取り組んでください。</p>

2018年度 自己点検・評価シート(案)

内部質保証委員会

基準2 内部質保証

* 各組織が認識している「2017年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2017年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2018年度期首時点)	①2018年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2018年度の取り組みとその成果 ②2018年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●内部質保証のための全学的な方針及び 手続を明示しているか ○内部質保証のための全学的な方針及び 手続の設定とその明示 ・内部質保証に関する大学の基本的な考え 方 ①・内部質保証の推進に責任を負う全学的な 組織の権限と役割、当該組織と内部質保証 に関わる学部・研究科その他の組織との役 割分担 ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・ 向上の指針</p>	<p>[現状説明] 2017年度に、「内部質保証の方針」をつぎのとおり策定し、本学WEB上で公表し た。 1. 内部質保証の目的:本学の理念・目的を実現するため、本学は自らの責任 において、教育研究活動等が適切な水準にあることを保証し、恒常的・継続的 に質の向上を図る。 2. 内部質保証の体制:大学全体の 内部質保証に責任を負う組織として、学長の下、内部質保証委員会を置く。内 部質保証委員会は、毎年度、教育研究活動等の適切性、有効性を検証するた め、自己点検・評価の全学的な方針を策定し、自己点検・評価活動を統括す る。自己点検・評価の結果及び外部評価の検証結果は、事業計画や教育研究 組織及び事務組織の活動計画等に適切に反映させることによって、教育研究 活動等の全学的な改善・向上を着実に推進する。 3. 自己点検・評価の実施:学部・研究科・委員会等の教育研究組織及び事務 組織は、「東京経済大学内部質保証に関する規程」に定められた点検・評価項 目に基づき、自己点検・評価を実施する。その過程では、それぞれの長所や問 題点、改善課題を明らかにし、適切な目標設定を行った上で、具体的な指標及 び根拠に基づいた達成度評価を行う。 4. 自己点検・評価結果の公表:内部質保証委員会は、学部・研究科・委員会等 の教育研究組織及び事務組織からの報告を総括整理し、自己点検・評価結果 を理事会に報告するとともに、本学ホームページを通じて、広く社会に向けて公 表する。 5. 外部評価による検証:内部質保証の適切性、有効性を客観的に検証するた め、認証評価機関による認証評価を受審するとともに、必要に応じて外部有識 者の点検を受ける。評価結果及び指摘事項等については、改善状況を点検 し、教育研究活動等の改善・向上に結び付ける。 6. 教職員個人における内部質保証:組織的なFD活動及びSD活動を通して、教 職員それぞれが教育研究活動等の質の保証・向上の担い手であることの自覚 を促す。</p> <p>[長所・特色] 学長の下に内部質保証委員会を設置し、内部質保証のための全学的な方針を 策定している。各組織は、内部質保証委員会の下で自己点検・評価活動を行 い、教育研究活動等の改善・向上をはかっている。</p> <p>[問題点] 外部評価による検証方法を検討中である。</p>	<p>①各組織による2018年度の自己点検・評 価活動を全学的な自己点検・評価報告書 として取りまとめ、公表する。 ②自己点検・評価報告書を製本するととも に、本学WEB上で公表する。</p>	<p>2019年3月13日開催の内部質保証委員会で、 2018年度点検・評価報告書を審議。今後、大学基 準協会への提出、WEB上への公表に向け作業を 行っている。</p>	<p>A</p>	<p>2018年度点検・評価 報告書</p>	<p>助言等は特にありません。 引き続き改善・向上に努めて ください。</p>
<p>●内部質保証の推進に責任を負う全学的 な体制を整備しているか ○内部質保証の推進に責任を負う全学的 な組織の整備 ②○内部質保証の推進に責任を負う全学的 な組織のメンバー構成</p>	<p>[現状説明] 2017年度に、「東京経済大学内部質保証に関する規程」を制定し、内部質保証 に責任を負う全学的な組織として、学長の下に内部質保証委員会を設置した。 構成員は、学長、副学長、各学部長、全学共通教育センター長、各研究科委員 長、図書館長、全学教務委員長、研究委員長、学生委員長、入試委員長、事 務局長、各事務部次長、総合企画課長となっている。 内部質保証委員会は、自己点検・評価を含む内部質保証の全学的な方針を策 定するとともに、教育研究等の活動を行う組織の自己点検・評価の結果を点検 し、各組織へ改善・向上の助言をする役割を担っている。</p> <p>[長所・特色] 教職員の主な役職者が構成員となっている。構成員を長とする各教育研究等 組織で自己点検・評価活動を行い、内部質保証委員会の下でPDCAサイクルを 循環させている。</p> <p>[問題点] 内部質保証委員会の構成員が24名と多く、一同に集まる機会を設けることが困 難である。</p>	<p>①2018年7月までに、各組織で現在の状況 および達成目標を内部質保証委員会へ報 告する。また、2018年12月に、その時点 での取り組みの点検・評価内容を報告する。 ②各組織は、学部・委員会等で確認した自 己点検・評価シートを内部質保証委員会へ 提出する。</p>	<p>各組織は自己点検シートの提出スケジュールに 基づき、2018年12月末までに「自己点検・評価 シート」を内部質保証委員会へ提出した。今年度 の取り組み完了後に改めて同シートを提出しても らう。</p>	<p>A</p>	<p>・自己点検・評価シ ート ・2019年度認証評価 までのスケジュール</p>	<p>助言等は特にありません。 引き続き改善・向上に努めて ください。</p>

2018年度 自己点検・評価シート(案)

内部質保証委員会

基準2 内部質保証

*各組織が認識している「2017年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2017年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2018年度期首時点)	①2018年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2018年度の取り組みとその成果 ②2018年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>③ ●方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか ○「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受入れ方針」の策定のための全学としての基本的な考え方の設定 ○内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織による学部・研究科その他の組織における教育のPDCAサイクルを機能させる取り組み ○行政機関、認証評価機関等からの指摘事項に対する適切な対応 ○点検・評価における客観性、妥当性の確保</p>	<p>[現状説明] 教学に関する全学的な統括組織として教学改革推進会議が置かれ、全学的な教学の方針の策定を行っている。教育研究等の活動をする基本組織である各学部、全学共通教育センター、各研究科、各種委員会、並びに事務組織は、全学的な教学の方針を踏まえたうえで、それぞれの組織の目標設定(P)、教育研究活動等の展開(D)、自己点検・評価(C)、改善計画の立案(A)を行っている。内部質保証委員会は、各組織へ「自己点検・評価シート」により同委員会、行政機関および認証評価機関等からの指摘事項を伝えて改善を求め(全学的なA)、各組織はみずからの改善計画とともにPDCAサイクルに取り組んでいる。</p> <p>[長所・特色] 全学としての「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」および「入学者受入れ方針」を策定し、その上で学部・研究科等ごとの方針を策定している。</p> <p>[問題点] 内部質保証システムをさらに有効に機能させるためには、アセスメント・ポリシーの策定が必要となる。</p>	<p>①2018年度中に各組織がを策定する。 ②全学のアセスメント・ポリシーおよび学部・研究科ごとのアセスメント・ポリシーを策定し、本学WEB上で公表する。</p>	<p>①各学部・各研究科等のアセスメント・ポリシーは、各組織で策定された。 ②全学のアセスメント・ポリシーは、2019年3月28日開催の教学改革推進会議にて審議予定。全学及び各学部・各研究科のアセスメント・ポリシーのWEB上の公表に向け、作業中である。</p>	A	<p>・全学・各組織のアセスメント・ポリシー ・2019年3月28日教学改革推進会議議事録</p>	<p>アセスメント・ポリシーの運用を具現化する組織体制を検討してください。</p>
<p>④ ●教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか ○教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等の公表 ○公表する情報の正確性、信頼性 ○公表する情報の適切な更新</p>	<p>[現状説明] 本学WEB上で、年度ごとに事業計画書、事業報告書、財務状況(予算、決算)を公表している。教育活動については、カリキュラム、履修モデル、シラバス等を公表するとともに、各学部等がブログを立ち上げ、教育活動等の情報を随時発信している。研究活動については、東京経済大学専任教員教育研究データベースや東京経済大学学術機関リポジトリで公表している。そのほか、教育研究活動等のトピックスを随時、ニュースやイベント情報として発信している。自己点検・評価結果については、認証評価に基づいて自己点検・評価報告書、大学基礎データ、大学評価(認証評価)結果、外部評価報告書、改善報告書を公表している。</p> <p>[長所・特色] 学部等ごとに多くの教員がブログに参加して、教育研究活動等の情報を発信している。</p> <p>[問題点] 専任教員教育研究データベースにおいて、全専任教員によるデータ更新には至っていない。</p>	<p>①専任教員教育研究データベースを適切に更新する。 ②7月11日の全学教授会で、学長および研究委員長から改めてデータの更新を要請し、徹底する。</p>	<p>専任教員教育研究データベースを適切に更新している。なお、2018年度は以下の情報をWEB上にアップした。 1. 学修時間・学修実態(学修時間・留学率等) 2. 授業評価結果(授業アンケート集計結果等) 3. 学修成果(到達度自己評価、単位取得状況、学位取得状況、学内試験結果等) 4. 資格取得等実績(資格試験合格者数や合格率、語学試験実績等) 5. 就職等進路にかかる実績(就職率のほか、大学院進学率、起業家数等)</p>	A	<p>https://www.tku.ac.jp/tku/disclosure/ http://repository.tku.ac.jp/dspace/</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>
<p>⑤ ●内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○全学的なPDCAサイクルの適切性、有効性 ○適切な根拠(資料、情報)に基づく内部質保証システムの点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>[現状説明] 内部質保証委員会を定期的に開催している。年度初めに、当該年度の方針を確認のうえ、各組織へ自己点検・評価活動について要請する。年度中に各組織の現状および目標設定を確認し、年度末には各組織の自己点検・評価結果を点検のうえ、改善・向上に向けた助言を行っている。上記の取り組みにより、全学および各組織におけるPDCAサイクルを適切に循環させている。</p> <p>[長所・特色] 内部質保証委員会は、学長、副学長および教育研究活動等を行う組織の長、並びに事務役職者で構成されており、全学的な視点でPDCAサイクルを循環させることができる。</p> <p>[問題点] 2017年度に、内部質保証システムを確立し、内部質保証委員会の下での自己点検・評価活動をスタートさせたばかりであり、今後、PDCAサイクルが有効に機能するよう取り組んでいくことになる。</p>	<p>①各組織が行う2018年度の自己点検・評価活動を、内部質保証委員会の下で全学の自己点検・評価報告書として取りまとめる。 ②各組織が自己点検・評価シートを使用して、2018年度の結果を内部質保証委員会へ提出する。内部質保証委員会は年度末までに全学の自己点検・評価報告書を作成する。</p>	<p>各組織が自己点検・評価シートを使用して、点検・評価報告書を作成し、内部質保証委員会が点検・評価報告書として取りまとめる。</p>	A	<p>2018年度点検・評価報告書</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>